


1年のしめくくりは笑顔で！ **ワインと美味** / **六芒星の寺社めぐり**

もっと楽しく 仙台発・大人の情報誌

りらく

検索

 Facebookもチェック!

# りらく

December 2014

定価 500円

# 12

**美味しい時間**  
**ワインとともに**

**仙台・六芒星の**  
**寺社めぐり**

りらくインタビュー

漫画家 **いがらしみきお**



# 仙台・六芒星の 寺社めぐり

仙台の街に、巨大な多角形が隠されている。  
ひと頃、そんな話題が盛りあがった。  
歳末にお正月と、何かと神社やお寺に足を運ぶ機会が  
ふえるこの時期、ひと味違うテーマで、寺社めぐり。

取材・文／えんぴつ  
撮影／菊地淳智  
写真／愛宕神社





# 仙台の街に、 巨大な六角形



仙台城趾の石垣。山城の面影を今に伝える

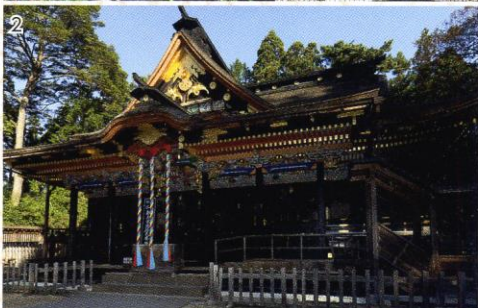
街の中に五角形や六角形が発見されるといふ話は、全国いくつかの都市で見られるようだ。都市を図形に見立てて設計するということとは、古い時代から行なわれていくらしく、例えばメソポタミア文明のバビロンは十二角形、京都は七角形、東京は五角形等々、真偽は別として興味をそそられる話題である。

この他にも三重県伊勢神宮、和歌山県熊野本宮大社、兵庫県淡路島の伊弉諾神宮、京都府皇大神社、岐阜県伊吹山の5カ所を結ぶと、巨大な逆さの五角形になるといふ説もある。

じつは、仙台にも同じようなものがあって、五芒星説と六芒星説

がある。五芒星は正五角形、六芒星は正六角形のこと。六芒星説は、藩祖・伊達政宗が仙台城と城下町を築くにあたり、意図的に寺社を配置して、仙台城、大崎八幡宮、東昌寺、仙台東照宮、榴岡天満宮、愛宕神社の6カ所を結ぶと、大きな六芒星ができあがるというものだ。

昔は城や町を築く際、風水による方位や地勢を考慮することが多く、なんらかの意図が込められていたとしても不思議ではない。古今東西、五角形も六角形も強固で美しい図形として、さまざまな意味合いをもつことが多い。ユダヤ教の象徴であるダビデの星は、三角形と



- 1: 国指定重要文化財の唐門と透塀。背後に本殿の屋根が見える (東照宮)
- 2: 大崎八幡宮御社殿
- 3: 榴岡天満宮・朱塗りの唐門





東昌寺



愛宕神社

逆三角形を組み合わせた六芒星で、この形は日本でも「籠目」として魔除けの文様とされ、また陰陽師・安倍晴明が用いた桔梗紋は五芒星、という具合である。

気ぜわしい年末を越せば、お正月には初詣、そして宮城県内各地でどんと祭もある。神社やお寺に足を運ぶ機会も多いこの季節、こんな話題を入口に仙台の寺社めぐりを楽しんでみるのも一興ではないだろうか。



# 仙台六芒星マップ



# ◆ 東昌寺

## 鬼門を守る“伊達五山”の 伊達家最初の菩提寺

北山五山の一つ、東昌寺を訪ねた。六芒星が政宗の意図だとしたら、仙台の町が築かれた当時の位置関係が重要と考えたからだ。同寺の創建は1283（弘安6）年福島の桑折で、その後伊達家の居城と共に移り、1600（慶長5）年に仙台築城とほぼ同時に仙台へ。同寺は元々、現在の青葉神社の場所に建っていたが、明治維新後の神仏分離で青葉神社が建てられることになり、東隣の現在地へ落ち着いた。

北山は仙台城から丑寅の方位にあたり、東昌寺をまん中に置いて“伊達五山”が配され、鬼門封じとした。伊達家初の菩提寺が、この東昌寺である。国安住職に話を伺うと、興味深いある人物の話題になった。仙台をつくるにあたり、陰で助言したのではないかと国安住職が推測するのは、当時の東昌寺住職“一風軒”こと、大有康甫和尚だ。

「町づくりで最も気をつけたのは、城と町を守ることだったはず。当時の寺社には皆の役割もあり、北山の丘陵から敵がなだれ込むのを防ぐために、伊達家の息がかかった5つの寺を集めたのでしょ。





禪寺らしい簡素で重厚な山門



東昌寺本堂

一風軒は政宗公の大伯父にあたり、虎哉和尚を推薦した人物でもあります」

一風軒は京都にいたこともあり、相当な知識人、教養人だったらしい。戦と知謀の時代、頼むべきは血縁と考えるのは自然の流れだ。また一地方豪族の伊達家があればほど力をつけるようになった、そのきっかけも教えていただいた。

「源頼朝と結びついたんです。初代の伊達朝宗が命を受け、福島信夫佐藤氏を攻略した。源氏の奥州征伐が成功し、功績として伊達郡をもらって伊達を名のるようになり、そこから大きくなった。東昌寺を菩提に決めた伊達家4代政依

は、知識や文化が集まる場として伊達五山を築いたのだと思いますね」

しかし1876（明治9）年の北山大火で、五山の寺宝等はほとんどが消失、古い記録も焼失したというから残念だ。大火の際は火元から離れていたため、東昌寺では少しか持ち出すことができた。「伊達政宗木造」の実物が残るのは、松島瑞巖寺と東昌寺だけだ。

東昌寺のマルミガヤは国指定天然記念物だが、福島県桑折町の伊達氏居城跡にも大カヤと呼ばれる巨樹がある。この地を選んだ際、当でも樹齢100年ほどの大木を見て政宗が不思議な縁を感じた



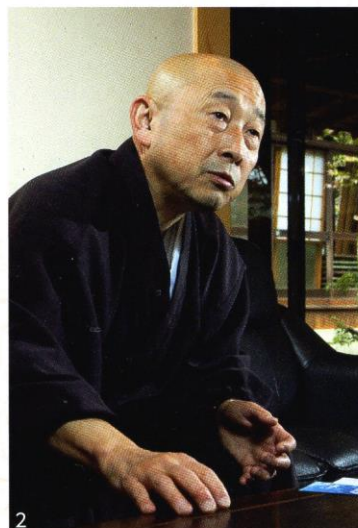
山門へ続く石段の両脇には巨木が林立する



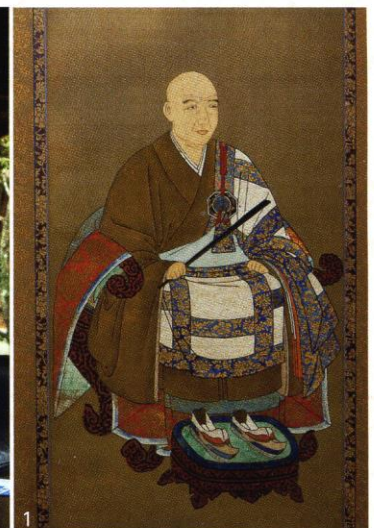
のではないかと、国安住職は語る。「六芒星で、政宗の存命中の建造は、仙台城、大崎八幡、愛宕神社、東昌寺の4カ所。これを結ぶと台形になります。仙台の『台』で、安定した形で長く続くようにとの想いも込めたのではないかと、個人的には考えています」

◇東昌寺  
仙台市青葉区青葉町8-1  
TEL.022-234-9066

- 1: “一風軒”こと大有康甫和尚の肖像画。1618年没
- 2: 東昌寺の国安泰泉住職。「第三十五世」住職の肩書きが、同寺の歴史を物語る



2



1